

# 令和5年度 第1回学校運営協議会

神奈川県立相模原弥栄高等学校

- 1 日時 令和5年7月4日（火） 15時30分～17時00分
- 2 会場 東棟2階 多目的室
- 3 次第

## ①開式の言葉 【副校長】

### ②校長挨拶 【校長】

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になり、少し緩和しているように思える。元の形に戻りつつあるが、すべてが元通りではなく社会の変化を受けて少しずつ学校運営の形も変化してきている。
- ・昨年度の進学実績が良くなっていることも合わせて、生徒の進学実績をもっと発信していく動きとなっている。
- ・全県でSSW（スクールソーシャルワーカー）が1校に1名つくことになった。6月に入りいろんな相談が増えていることもあり、外部の方・専門の方に協力いただいて、生徒の困り感に答えていきたい。
- ・交通安全大会があることもあり、自転車乗車時のヘルメットの着用をもっと進めたい。
- ・STEAM教育研究推進指定を受けており、年次ごとの過程を可視化するために「やえいノート」を作成、運用を試みている。
- ・高校教育課からの依頼である。橋本にリニアの中間駅をつくるため工事の最中であるが、JR東海主催秋のFESのお話がある。本校からはダンス部、吹奏楽部、軽音楽部の参加を考えている。
- ・各部活動も様々な地域との連携を図っており、美術部は淵野辺駅にできたお店に黒板アートを制作、展示されている。
- ・校内美化において、40年の間に物品が溜まっているので、管理グループを中心に整理をし、断捨離をしてもものの整理をする動きが進んでいる。
- ・美術科は西湖へ実習、運動部活動は県外への合宿も多く予定されている。補習・講習への参加率は少し様子を見ようと思っている。
- ・様々な方の力をお借りして、学校運営を行っていきたいと考えている。

## ③自己紹介

### ④各グループより 【担当総括教諭】

#### ○管理グループ（資料なし）

- ・今年の学校目標は断捨離をすること（学校内の整理）。
- ・40周年記念事業として、自習室の整備、そろそろ整備が終わり、生徒に開放される。職員室横の自習スペースも整備していきたい。
- ・PTAの活動は、WE FES体育の部ではドリンクサービス（1人1本）を行った。文化の部では出し物をする予定でいる。
- ・今年は交通安全幹事校であることもあり、力を入れていきたい。

- ・会計業務では、会計担当者に向けて数回の研修を行い、事故防止に取り組む。
- ・防災訓練に関しては、コロナが緩和してきているため、今年度は集合での形を検討中。

#### 【質問】

ヘルメットの着用は努力義務だが、どの程度的人数が着用しているか→（菅野）1割より少ない程度の着用率→努力義務なのでどの程度の働きかけができるか。→（菅野）風紀委員の生徒と連携し、ヘルメットの着用率を上げていきたい。→ヘルメットの着用率と高校生の自転車マナーが課題。

（伊原様）断捨離はどの程度行うか。歴史的なものは残しておいてほしい。→（冠野）そういったことも踏まえながら断捨離を実施していく。

#### ○教務グループ

- ・教育課程について、昨年度は音楽科・美術科を改変することができた。今年度の1年生から教育課程の4学科の共通化をすすめている。
- ・授業改善に関して、6月には授業改善月間、授業実践を行った。行った教員以外にも自分の教科と他教科の2つの授業を参観し、その感想をまとめている。
- ・生徒による授業評価に関して、昨年度の第2回は結果が少し悪くなってしまった。それをふまえ、生徒が答えやすいような行い方に改善し、授業評価を行っていきたい。
- ・以上のこと以外では、成績のことなど、日常的に業務を行っている。

#### ○生活グループ

・生徒指導のまとめとして、交通事故が非常に多い。各クラスの担任から注意喚起を定期的に行っている。盗難も少し発生しており、まずは物の管理を徹底するように指導している。そのほかには、長欠・不登校が非常に多くなっているため、今年度はSSWもうまく活用し、協力しながら進めていきたいと考えている。

#### 【質問】

- ・教育相談の件数は内容ごとに1件と、いう数え方である。
- ・長欠・不登校は例年増えているのか？→（菅野）具体的な数値は分からないが横ばいであるという感覚である。コロナも関係している可能性があるかもしれない。
- ・長欠・不登校の生徒にはどのように対応しているのか？→（菅野）基本的には担任・学年で対応。話しやすい等あればスクールカウンセラーに対応してもらっている。→電話での対応？→（菅野）訪問はないが、各担任が丁寧に対応している。主に電話や、学校に（保護者も含め）出向いてもらい、話をするなどの対応をしている。

#### ○進路グループ

・進路実績が増えた（4年制大学が4%増えた）。普通科がGMARCHクラスに合格するなど、自分の進路に向けて頑張った。指定校推薦や年内入試が流行っていることは、少しもったいない印象はあるが、自分の行きたい大学に行ってもらえたらと考えている。

保護者や教員で大学とはというところを理解していない人が多い。先月行った保護者対象の進路説明会では丁寧に説明を行った。大学は受け身で勉強する場所ではない。大学は定員割れしているところが沢山あり、苦勞している大学もある、という話をしている。安易な大学選択は、大学を途中で退学することが近年増えているという話もした。

県立相模原・麻溝台は予備校化しているイメージ。実績が落ちていて、どう勉強させるかという傾向になっている。

何でもやる元気な子（部活動等も頑張っていた子など）が受験も頑張っているのも、弥栄の生徒たちの強みはそこにあると思う。一般受験もぜひ考えて、頑張ってもらいたい。

#### 【質問】

新聞に県立相模原は載っていなかった。学科別に見ると普通科が（進学率が）高い。教育課程の変更（4学科の共通化）をふまえ、3年後に普通科以外の3学科がどう伸びるかが見どころ。年内入試について→（小島）行きたい学校のためにまずは指定校、なければ一般で頑張るといふ流れ・雰囲気が出てきた感じがしている。一般入試にシフトする生徒が増えてきた。自分をしっかりと評価し、自分に合わせた進路選択（受験方法の選択）をできる子が増えてきた。普通科に入学してきている生徒のレベルも上がってきた。以前の理数科は英語ができなかったが、それと比べて英語ができ、全体的にできる子が増えてきた。

#### ○SIグループ

- ・生徒が主語になるような活動をさせるという方向性のもとすすめている。生徒たちが自ら考えて取り組むことを考えて、引き出せるように意識している。
- ・WE FES体育の部では弥栄体操を全校生徒で一緒に行った。弥栄体操ができるまでの背景として、音楽科が音楽を作り、美術科が説明書のイラストを作成、普通科が説明書（英語verも）を作成、スポーツ科学科が体操を作成した。
- ・文化の部は調理販売など制限解除、どなたでも入校できるようになっており、生徒を中心に検討をすすめている。
- ・部活動も活性化。陸上部は関東大会に出場、2年生の女子2名は全国大会に出場予定。バドミントンは関東大会へ出場した。

#### ○広報・連携グループ

- ・全公立展に関して、職員が休む間もないほどの盛況だった。コロナが明け、動きがよめないうちだが、公私合同説明会や学校説明会を盛り上げていきたい。
- ・部活動が盛んな反面、部活動体験を行うことが難しいが、工夫して頑張っている。
- ・入試制度が変更→面接がなくなるなど、制度上での変更があるため、事故を起こさないよう頑張っていきたい。

#### 【質問】

スポーツ科学科の倍率が増えた要因は？→（鶴田）一昨年少なかったのは部活動体験ができなかったり、高校生の活躍を見せることができなかった。公立に体験・説明会にこれたのは10月・11月で、私学に流れた可能性があり。昨年度の受験生は市内の中学生が増えた。→（石川）地元を支えられている。学校説明会では体育館に入れないうほど来ると予想して、どう運営するかが課題。

#### ○総務グループ

- ・昨年度の卒業式では卓球場ではあるものの、オーケストラを復活させることができた。
- ・入学式は入学生の横にオーケストラを配置することができた。
- ・今年度の卒業式はPTA会長のみでなく、来賓の方にもご出席いただく予定。

## ○STEAM教育

### 【質問】

(伊原様) 「やえいノート」とは? → (笹原) そもそもSTEAM教育とはというところからはじめ、「探究活動」が本校のSTEAM教育であると考えた。そこからどのようにやっていくか考えたところ、もうすでにやっているのではという結論に至った。どのようにしたら探究活動をより良いものにしていけるかを考え、「言語化・表現」をキーワードに、それを補助するツールとしてやえいノートというものを作成した。(自分の活動の記録・成果の記録をするもの) 現1年次では自己分析などを行っている。集団の一員として自分を見つめて、自己有用感などを得られるように工夫している。(小島) イメージはポートフォリオ。進路や自己分析など、教科をまたいで活動したものをそちらで保管するようにしている。

(キャリアパスポートになるものなので、弥栄でのキャリアパスポートはやえいノート(STEAM教育)であるという考え)

### ⑤閉式の言葉 【副校長】

#### 4 その他

(加賀屋様) 6月11日に光が丘公民館では軽音楽部のコンサートがあり、60代以上の方々が軽音楽に触れ、いい機会だった。地域の参加した方々からも沢山いい言葉を頂き、使用した場所をきれいにして帰るところにも感動した。